

風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷／父の家を離れて／わたしが示す地に行きなさい。・・・・・・・・

アブラムは、主の言葉に従って旅立った。創世記12：1—4
神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

ヨハネによる福音書3：16

【説教要旨】

愛されて生きる

ヨハネ福音書を書いたヨハネは、「愛」について語った人です。ヨハネの研究者であった日本ルーテル神学大学の学長を努められた間垣洋助牧師が、16節について次のように記しています。「16節は、全聖書の中心的メッセージを示している。神は自己の恩恵の意志によって、そのひとり子を賜った。『賜う』とは、単にひとり子をつかわして誕生せしめるということではなく、イエスを『死に渡す』ことであり、『十字架につけて』殺すことである。イエスの受肉は、十字架を目標としており、彼は十字架を目指して進んでいった。・・・神の愛は、抽象的でなく、そのひとり子を人類のために十字架につけるといふ具合的事実の上に立っている。十字架の上にあげられたイエスを見上げること（信じること）によってのみ救いはくる。そしてその救いは世界的福音の救いでひとりも滅びることがない。神の愛は、無限に広く、無条件的である。ヨハネは、神の愛を最高度に説き、福音が世界的であることを重視する。」

そして、先生は、「神の愛は、抽象的でなく、そのひとり子を人類のために十字架につけるといふ具合的事実の上に立っている。」ということをも自分のものとして生きた人です。

十字架の具体的事実を自分の具体的事実へ繋ぎ取っていきました。

生きることに困難さを感じつつもこの苦しみの具体的事実を主の神の具体的な十字架の神の愛の中に受けとめて生きました。

間垣先生から娘さんの墓前礼拝に奥様のお供をするように頼まれることがあり、奥様からよく先生の牧師人生のお話を聞く機会がありました。戦争中は食べ物が十分に配給されずにいました。「私は主人に一生涯、頭があがりません。戦争中、最後に残ったこんにゃくをひもじくて、ひもじくて、主人が工場に行っているときに食べてしまったんです。主人が帰って来たときに夕食に出すものがありませんでした。そんなとき、工場から帰ってきて、『食事は』と、『何もありません』と言ったんです。でも『そう』と一言を言って、寝てくれました。」

ここに愛があると思います。古語の「悲しい」という言葉には、現代の悲しいという意味と愛おしいという意味があります。食事を出せない時代の悲しみ、またひもじくて食べてしまった悲しみがある。しかし、その時代に生きる人の悲しみを自分の苦しみと受けとめつつ、時代を責めることも、奥さんを責めることもなく愛おし、愛する心へと動かされたのは、神の愛は、抽象的でなく、具体的、今ここにあると信じた信仰があったからではないでしょうか。時代の悲しさ、そして個々人の悲しみを神は負ってくださった。私たちを救うために十字架に自分の子を架けるといふ具体的事実を立て、腸痛む悲しみをもたれ、この悲しみは、私たちを愛おしと思う神の心としてくださったのです。

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。これが神のみ心で、この神の愛によって、私たちは生かされているのです。神の愛を知りかつ信じることこそが、悲しみが愛へと変わる具体的な行為となっていくのです。私の今日、今、神は、その独り子をお与えになったほどに、私を愛されています。神に愛されたことを知り、信じたパウロはローマの人に次のように伝えていきます。

では、これらのことについて何と言ったらよいだろうか。もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵

対できますか。わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜し
まず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたち
に賜らないはありますか。だれが神に選ばれた者たちを
訴えるでしょう。人を義としてくださるのは神なのです。だれが
わたしたちを罪に定めることができます。死んだ方、否、む
しろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座
っていて、わたしたちのために執り成してくださるのです。だれ
が、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょ
う。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。
「わたしたちは、あなたのために／一日中死にさらされ、／屠ら
れる羊のように見られている」と書いてあるとおりです。しか
し、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを
愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。わたし
は確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在
のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、
低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリ
スト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離
すことはできないのです。 ローマ人への手紙8:31～39

生き辛さに満ちた悲しい世界を私たちは生きています。そこ
で私たちはなぜ生きていかなければならないのかと壁まで追い
詰められています。神は生き辛さに満ちた私たちの悲しみに居
て下さり、私たちを愛おしく思ってくださいている神の愛が私
たちの内に満ち満ち、誰も神の愛から、わたしたちを引き離す
ことはできないのです。アブラハムのように行くところ知らず
して、神の言葉を信じて旅立ったように、この生き辛さに満ち
た時代を生きる私たちも神の言葉、神の愛を信じて、一步を踏
み出し、私たちの人生の旅路を歩みだしましょう。

生き辛く悲しみに満ちても「そう」と言ってすべての悲し
みを負って寝床について、悲しみを愛おしむ心に変えて明日へと
準備出来るのが神に愛された私たちです。

牧師室の小窓からのぞいてみると



私だけであろうか。今の時代の流れは怖い社会になるのではないだろうかと感じている。今回の選挙の結果はある一面ではインテリジェンスのバランスが崩れた衆愚政治の一步が始まったように感じる。

「以上すべてを証しする方が、言われる。『然り、わたしはすぐに来る。』アーメン、主イエスよ、来てください。黙示録 22 : 20」とこんな気持ちが自分を捉えて離さない。いまこそ、黙示録をゆっくりと読むときかもしれない。



園長・瞑想？迷走記

「少子化」について、幼稚園の運営は嵐のように翻弄されている。しかし、1992年には、少子化について「国民生活白書」で、将来に及ぼす社会問題について、記している。そういう流れがあったのが、やっと少子化対策に着手したのは、後のことで2015年に「子ども、子育て新支援制度」が開始されて今日にいたっている。

園長になって、出来るだけ研修会に出ていた。段々と少子化に対する幼稚園の対応と「子ども、子育て新支援制度」が話されるようになった。そこで、ルーテル幼保の会長になったとき、既に認定こども園になっていた小城に全国から幼稚園園長を集め、「子ども、子育て新支援制度」に入るように方向性を決めた。地方は認定こども園に、都市部は少し待って施設型給付幼稚園にという方向性だった。実際、九州は認定こども園に、東京は施設型給付園になっていった。そして、今、東京も羽村幼稚園に代表されるように認定こども園に移行しないと運営は厳しいものとなるだろう。

しかし、いつも思うのですが、これはあくまで幼稚園の運営を守ることであって、ここに子どもがいない自己保存的になっているのではないかと思います。キリスト教主義の幼稚園としてそれで良いのかと自分に問うています。

日毎の糧

聖書：【都に上る歌。】目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。
わたしの助けはどこから来るのか。わたしの助けは来る、
天地を造られた主のもとから。

詩編 121:1—2



ルターの言葉から



信仰とは私たちのうちにおける神の働きである。

(ローマ書条文)

神の働きに守られて

神への力強い全身的な信頼の詩篇であり、教団讃美歌 301 「やまべに向かいて」でよく知られた詩篇である。また、この詩篇は、巡礼の時だと言われている。

「詩篇 24 篇の場合とは逆に巡礼が聖所から出て家路につくに際して儀礼が問題になる。しかし、巡礼が故郷を出る時に状況を設定することも可能である。たとえば巡礼に出る息子に対して父が旅路の無事を祈って祝福を与えるような場面が考えられるのである。」①

巡礼の旅の中で、人々は、自然の中で、天地を造られた神を感じたのではないだろうか。「草木が芽生え、動物たちが暮らすごく身近な自然のなかに、古代のイスラエルの信仰者たちは創造の神の配慮あるいははたらきを見て取っている。多くの巡礼者にとって、徒歩でエルサレムを往復する旅路は、雄大な自然に触れるとともに、神の配慮の中に生かされている身近な自然を感じる絶好の機会であったにちがいない」②と。そして「この作品は、さまざまな不安に脅かされながらも神の守りのうちに人生を歩む信仰者の歌として読むことができるのである。人の歩んでいかなければならない将来の暗がりや、以下のように語りかけることによってこの作品は照らし出されている。——天地の造り主である神が、われわれを守られるのだということ、そしてこの神はいかなる時にも目覚めている〈生ける神〉なのであって、この御方に信頼する者、ひとりひとりの旅路を守り導かれるのだと——。」③と、今、121 篇を読む者は、受けとめられる。

引用文献：①詩篇注解 勝村弘也 日本基督教団・宣教委員会

②③詩編の思想と信仰 V 月本照男 新教出版

祈り：主への信頼の人生の旅となりますように。アーメン。

甘木通信

コヘレトは言う。なんという空しさ、なんという空しさ、すべては空しい。太陽の下、人は労苦するが、すべての労苦も何になろう。コヘレト1：2



人生の転換点（ターニングポイント）がブラジルであったことをお話した。多くのイエスにあっての人と出会った。プロテスタントの全ての教派の連盟体であったブラジル・キリスト教連盟で、年寄りの牧師から「エンシャーダ（鋏）も担いだこともない者に言われたくない」と言われたことがある。開拓で苦勞し、伝道をしたこともない戦後の豊かな日本から来たあんたたちから言われたくないということであった。

「日は昇り、日は沈み あえぎ戻り また日が昇る。コヘレト1：4」。あえぎ戻り、また日が昇り、明日が来る。日のあえぎ戻る日は、日だけでなく、開拓に疲労困憊した開拓民にとって、エンシャーダを担ぐ自分たちもあえぎ戻る明日を迎えた開拓民のあえぎ戻りのあえぐ息遣いが聞こえてきた。

その時は、若気の至りということ、くそ爺、くそ婆と心で思っていたが、かつての開拓地にある教会を歩き、多くの方々から苦勞話を聞くたびに「日は昇り、日は沈み あえぎ戻り また日が昇る。」ということ、どんなにつらく、しかし、どんなにつらくてもここを歩み通した先人がいたから自分が今、ここにいるということに気づかされる多くの人に出会った。よくここまで生きてきたという先人の生のあえぎの息に触れて、自分を深く反省し、自分の心が開かれ、あえぎ戻り また日が昇るということの辛い人生に出会っても、生きることが全てだと思ふような変な自信が与えられた。

(甘木日記)土) 午前中、日善幼稚園の庭仕事、夕刻、甘木教会へ。日) 掃除、礼拝といつものことだが、午後から博多で役員研修会。いつか考えたことだが状況が厳しい。月) 休み。役員会資料作り。午後から休みに入り家内と太宰府へ。火) チャプレンが休みで子ども礼拝説教を担当。水) 保護者総会、卒園生の感謝会。木) 午前中、メールの確認、松崎保育園でのチャプレンの仕事、午後から甘木教会。暖かくてポインセチアを地植えする。昼、羽村幼稚園の zoom 会議。金) 行き先を水族館に変えて雨の中をお別れ遠足に行く。引率も疲れる。早く帰宅する。

おまけ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。
はぐちらない聖人(牧師)もいますが。

土) 午前中、日善幼稚園庭に作った腐葉土をふるいでふるう仕事。大きいポット分2つを作れた。さらに土を掘り返して空気を入れる。楽しい作業。昼は花緑さんの独演会。上手いが小三治さんのように丸くない。



少し疲れる。夕刻、甘木教会へ。インドネシア語の週報、「風のように」を準備、印刷。AIの翻訳機能が活躍。日) 朝、園庭を掃除しながら瞑想。み言葉をぶつぶつ、そして課題と向かい合う。祈る。礼拝、荒野から命が生まれるという説教。家内と喧嘩中。午後から博多で行われる役員研修会ため朝から家内は昼食準備し、奏楽してくれる。私と礼拝の掛け合いがぎこちない。四旬節なのに「ハレルヤ」を私は歌う。午後から役員研修会である。発題を聞いていると昔、考案したこと、しかし、状況がその時よりも厳しい。時代の変化と厳しさを感じる。別府から3人が研修会に来ていた。みんな20代のとき、今は、爺さん、婆さん。でも教会のために。夜は三重県から来た友人と食事。流石に疲れる。月) 段々と眠りの質が悪くなっているし、いつまでも寝られなくなっている。次週の久留米役員会、甘木役員会の資料の見直し、準備。眠りも浅く体調が悪いが、家内が太宰府の九州歴史博物館に行きたいというので一緒に行くが、足も重く、体調が悪い。火) 体調が今いち。体が重い。主任から息子さんの病気で遅く来られると連絡をいただき、チャプレンも休みで、早く幼稚園に行く。子どもの礼拝説教を担当し、元気づけられる。役員研修会の纏め、私見を役員に送る。教会の方向性の方策に長く携わってきて、いつも感じているのは、方策は人間の業で、神の御手が働くようにみ言葉に聞き、祈り続ける霊性によって清めてもらわないといけな。コヘレト曰く、「知恵が深まれば悩みも深まり、知識が増せば痛みも増す」ということに忍耐できるかと言うことだと思う。水) 一年ぶりに復活した保護者会の総会で祈り、次年度の園の保育内容紹介。年長組の感謝会。卒園生がわざわざ幼稚園に募金を届けにきてください。有難い。「園だより」を英語、タガログ語に編集していると20時40分に園をでる。体が重い。木) お礼状を書き、メールチェックして、松崎保育園、午後から甘木教会。ポインセチアを地植えに。こういうふうには仕事を回せることが出来るのも妻が全ての家事をしてくれるからだと感謝。それにしても体の重く、熱ぼっくて、だらしい。再発かと少し不安。身を主に任せよ。金) 遠足の引率で、いざ、水族館。疲れる。撃沈(笑) 早く帰宅し、マッサージに行く。

